

Q 野球肘検診とはなんですか？

小中学生に多い野球肘をチェックするための医学的な検査です。超音波装置をもちいて肘をチェックします。超音波検査は選手の体に全く負担はなく、その場ですぐに肘の異常を見つけることができます。現在無料で行っています。

Q 検診は受けたほうがいいの？

小中学生に多い野球肘では肘の内側（内側とは手のひらを前に向けて小指側にある方です）に痛みを感じる人が多いです。内側の異常は重症になることは少なく、野球への復帰が可能です。一方で外側の障害（外側とは手のひらを前に向けて親指側にある方です）は問題があります。外側の障害を離断性骨軟骨炎（りだんせいこつなんこつえん）といい、肘の骨が何らかの原因で壊れ、進行すると表面の軟骨と共に剥がれる病気です。この病気の問題は初期には何も症状がでないことです。気付かず野球を続けていると半年から 1 年ぐらいかけて徐々に進行し、痛みが出てきたころには病気が進行しており、手術が必要になることもあります。しかし、症状が出る前、初期の状態で見つかり手術を行わなくても治ることがわかっています。つまり検診による早期発見・早期治療開始が重要になります。また中・高校生になってから「肘を壊して野球ができなくなる」というのは小学生の頃に原因があるということがわかってきました。そのため全国各地で野球肘検診が盛んになってきています。

Q 検診で異常が見つかったら？

もし検診で異常が見つかった場合、病院でさらに詳しい検査を受けることを勧めます（検診の当日に詳しい検査ができる病院についても説明します）。病院ではレントゲン写真や CT、MRI を撮影するために有料となります。治療が必要な場合も早期に開始することができるため、野球への復帰も早くなります。